

平成29年度 政策篇

管理職総合講座A (町村・農山漁村地域職員向け)

開催のご案内

市町村職員中央研修所（市町村アカデミー）では、「管理職総合講座A（町村・農山漁村地域職員向け）」と題した研修を下記のとおり開催します。

主に農山漁村地域を抱える町村の管理職職員等を対象に、中長期構想策定による課題を発見し、条件不利地域であっても、住民が住みたい地域に住み続けることができるための、持続可能な地域づくりを総合的に学びます。

多くの皆様の参加をお待ちしております。

開催要領

日程	平成29年7月31日（月）～8月3日（木）（4日間）
場所	市町村職員中央研修所（通称：市町村アカデミー）
対象	農山漁村地域を抱える町村職員のうち管理職 上記以外の方で、受講を希望する場合には、事前にご相談ください。
定員	60名
経費	7,050円以内（食費を除く。また、教材用図書費が別に必要となる場合があります。）
申込期限	平成29年5月8日（月）まで
申込方法	当所ホームページの「研修受講電子申込」サイトから申し込んでいただくか、「研修受講申込書」に必要事項をご記入の上、郵便又はFAXにて直接ご送付ください。

※記載内容については、都合により変更となることもあります。予めご了承ください。

会場 及び 問合せ先：市町村職員中央研修所 研修部
〒261-0025 千葉県千葉市美浜区浜田1-1
TEL：043-276-3126 FAX：043-276-8484 URL：http://www.jamp.gr.jp

内容と時間

7/
31
月

- 11:00~12:20 受付
- 12:30~13:40 オリエンテーション・開講式
- 13:50~17:00 長期ビジョン策定の意義と役割（講義）

明治大学政治経済学部教授 牛山 久仁彦 氏

内容

市町村においては、少子高齢化の進展、人口減少、財政状況の逼迫化、市民活動の活発化、地域経済の活性化などの多様な地域課題に対し、将来にわたって、的確な自治体運営を行っていくことが求められています。そういった社会情勢の中で、住民総意の憲章づくりとして、20年、30年続く長期ビジョンを策定する意義と役割を学びます。（この講義は「管理職総合講座B（都市部職員向け）」との合同講義となります。）

- 9:00~10:35 町村の現状と課題（講義）

読売新聞東京本社編集局企画委員 青山 彰久 氏

内容

町村・農山漁村地域の現状と課題、地域を取り巻く情勢環境の変化と将来見通し、地域活性化の視点などについて学びます。

- 10:50~12:00 過疎地域等に対する地域振興施策（講義）

総務省地域力創造グループ過疎対策室（組織対応）

内容

日常生活圏である集落の維持・活性化を図るためには、集約とネットワークが重要です。基幹集落を中心に周辺の複数集落をひとつのまとまりとする「集落ネットワーク圏（小さな拠点）」の形成や、それを支える中心的な組織である「地域運営組織」の取組を含め、条件不利地域等の現状や動き、国の支援措置等について学びます。

8/
1
火

- 12:00~13:00 昼食

- 13:00~14:45 集落を考える（講義）

（一社）テクノスクール・農村研究所理事長、熊本大学名誉教授 徳野 貞雄 氏

内容

持続可能な地域づくりを考える前提として、日常生活の範囲である集落をとらえ直すこと、また人口や世帯という数のみにとらわれるのではなく、集落に住む人、家族をとらえ直すことが重要です。集落の実情、底力等について学びます。

- 15:00~17:00 地域に人と仕事を取り戻す（講義）

（一社）持続可能な地域社会総合研究所所長 藤山 浩 氏

内容

若者や女性が農山漁村に移住する「田園回帰」の流れが起きています。市町村ごとそして地域ごとに地域人口安定化に向けた具体的な目標を共有し、毎年少しずつ人と仕事を地域に取り戻せば、地域が維持される可能性が見えてきます（田園回帰1%戦略）。地方消滅の諦めから脱却し、地域の可能性を共有するための具体的な考え方について学びます。

内容と時間

9:00~10:25 地域運営組織の取組（レクチャー&フォーラム）

NPO法人きらりよじまネットワーク事務局長 高橋 由和 氏

内容

地域運営組織は、地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって、概ね小学校区の範囲で、地域の課題解決に向けた取組を持続的に実践する組織です。今後、持続性のある地域づくりのためには、地域運営組織の取組が重要となるため、先進的な事例を紹介し、組織の代表者等と意見交換を行うなど、地域運営組織の取組について学びます。

10:40~12:00 小さな拠点の形成（事例紹介）

NPO法人きらめき広場事務局担当理事 深井 正 氏

内容

中山間地域等の集落において、安心して暮らしていく上で必要な生活サービスを受け続けられる環境を維持していくために、地域住民が自治体や事業者、各種団体と協力・役割分担をしながら、各種生活支援機能を集約・確保したり、地域資源を活用し、仕事・収入を確保することが重要です。このような「小さな拠点」づくりについて、先進的な事例を紹介することにより、小さな拠点づくりの形成や運営の実態について学びます。

12:00~13:00 昼食

13:00~15:35 条件不利地域の取組事例（レクチャー&フォーラム）

島根県海士町地産地商課長 大江 和彦 氏
島根県教育魅力化特命官 岩本 悠 氏

内容

地理的条件等による条件不利地域であっても、地域の魅力を再発見し、転入者の増や新たな事業に成功している事例がある。今回は、離島の事例について、町村職員及び島外から転入した方から事例の紹介をしていただくとともに、意見交換を行い、地域づくりのヒントとしていただきます。

15:50~17:00 課題解決フォーラム①（討議）

内容

町村、農山漁村地域として抱えている課題について、離島、山村等の条件不利の態様別に班編成を行い、その課題についてグループ討議を行います。

9:00~12:00 課題解決フォーラム②（講義）

内容

持続可能な地域づくりのために、万能の解決策はなく、それぞれの地域に応じた対応が必要となります。そのためには、多種多様な考え方に触れることが重要であることから、全員で同一のテーマについて、ワールドカフェ方式により意見交換を行います。

12:00~ 修了式

研修所へのアクセス

東京	JR総武線（快速）31分	津田沼（乗換え）	JR総武線（各停）3分	幕張本郷（下車）	路線バス 約10分
上野	JR山手線又は京浜東北線4分	秋葉原（乗換え）	JR総武線（各停）41分		
新宿	JR中央線（快速）11分	御茶ノ水（乗換え）	JR総武線（各停）43分		
大手町	東京メトロ東西線（快速）22分（各停）29分	西船橋（乗換え）	JR総武線（各停）12分		
羽田空港	京浜急行（エアポート快特）14分	品川（乗換え） JR横須賀・総武線39分	津田沼（乗換え） JR総武線（各停）3分	タクシー 約5分 (徒歩25分)	
羽田空港第1ビル	モノレール（空港快速）17分	浜松町（乗換え） JR山手・京浜東北線10分	秋葉原（乗換え） JR総武線（各停）41分		
羽田空港第2ビル	モノレール（空港快速）19分			海浜幕張（下車）	路線バス 約10分
東京	JR京葉線（快速）30分（各停）38分				
有楽町	東京メトロ有楽町線13分	新木場（乗換え）	JR京葉線（快速）21分（各停）31分	タクシー 約5分 (徒歩25分)	
羽田空港第1ビル	モノレール（空港快速）17分	浜松町（乗換え） JR山手・京浜東北線5分	東京（乗換え） JR京葉線（快速）30分		
羽田空港第2ビル	モノレール（空港快速）19分				
羽田空港	リムジンバス60~180分程度（事故・渋滞が頻発するため、余裕をもってご利用ください。）				

